

競技スポーツを始めたきっかけと続ける理由について - 滋賀県高島市の普及活動の実態 -

生島 宗幸 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 佐々木 直基

キーワード：スポーツ活動契機 普及活動 総合型地域スポーツクラブ

1. 緒言

2010年までに全国の各市町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを設置することが到達目標とされ、年々増加傾向にある。

しかしながらバレーボールの競技人口は女子の関心の高さに比べ、男子は野球やサッカーに押され少数意見となっているのが現状である。

そこで本研究では、滋賀県の地域スポーツクラブの会員に対し、スポーツを始めたきっかけと続ける理由の調査を行うことで、小・中学生、特に滋賀県内におけるバレーボール人口の減少に波止めをかけるための方策を導き出すこと事を目的とした。

2. 研究方法

高島市の総合型地域スポーツクラブ NPO 法人 TSC に通っている小・中学生 150 人を対象にスポーツ活動を始めるきっかけなどについてのアンケート調査を実施した。回収率は 93% (138 名/150 名) であった。

3. 調査結果及び考察

図1からわかるようにこれからの事業展開として、小学校低学年・幼稚園・保育園年長へのアプローチが必要であることがわかった。また図2から小学校低学年からの影響がそのきっかけになっていることが分かった。そのためママさんバレーの充実によってバレーボールを始めるこどもたちへのアプローチが可能になると考えられた。

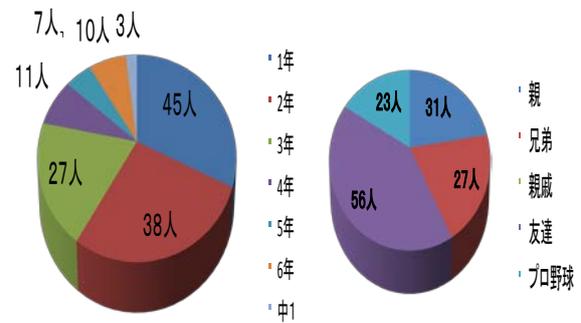


図1 スポーツを始めた学年 図2 きっかけ人物

4. まとめ

本研究で得られた知見は以下の通りである。

1. 地域スポーツと学校課外活動の更なる連携が必要

しかしながら、時間的課題・経済的課題をクリアしていかななくてはならないなど具体的な課題も多くみつかった。

2. 小学生低学年や幼児を対象としたプログラムの開発が必要

しかしながら、現状は「ボールへの恐怖心」など、継続を阻害する原因を払しょくするには至っていない。そのため、その時代にふさわしいプログラムの開発が必要であるといえた。

3. ママさんバレーの充実の可能性はある

小学校低学年から始め、なおかつ家族の影響がそのきっかけになっていることが分かった。子どもたち一緒にその活動に参加し、スポーツをはじめ、続けるきっかけを作ることができる考えた。

参考文献

八木隆一郎.(2007.3).わが国に総合型地域スポーツクラブが定着する可能性について. 大阪

